

## 公文書管理の在り方等に関する有識者会議（第10回）議事概要

1 日時 平成20年9月4日（木）10：00～12：10

2 場所 内閣府本府庁舎地下一階講堂

3 出席者

（有識者・50音順、敬称略）

朝倉敏夫、宇賀克也、尾崎護（座長）、加藤丈夫、加藤陽子、後藤仁、高橋伸子、野口貴公美

（オブザーバー）

菊池光興国立公文書館長

（政府）

福田康夫内閣総理大臣、中山恭子公文書管理担当大臣、増原義剛内閣府副大臣、並木正芳内閣府大臣政務官、浜野潤内閣府大臣官房長、橋口典央総務省行政管理局長、山崎日出男内閣官房公文書管理検討室長

4 議事次第

(1) 開会

(2) 有識者等からのヒアリング等

①杉本重雄 筑波大学教授

②文書管理業務の業務・システム最適化について（総務省行政管理局）

③情報セキュリティについて（内閣官房情報セキュリティセンター）

④電子媒体による歴史的公文書等の移管及び保存について（独立行政法人国立公文書館）

(3) 有識者会議中間報告に対する御意見等募集の結果

(4) 閉会

5 議事の経過

◎福田総理より挨拶

（福田総理）委員の皆様は御多忙の中この会議に出席いただき、また、本年3月から議論いただき感謝。公文書館制度の強化への取組について日本は世界に後れを取っており、本来もっとしっかりしていないといけなかったが、ぽっかり穴があいたようになっている。4年前にも重要政策の一つとして取り組んだ。そもそも公文書は、国民に政府の情報を

提供する、世の中に事実を知らしめるための民主主義の原点であり、国民共有の財産である。文書をきちんと作って、収集していかねばならない。しかし、我が国の公文書制度は残念な状態と言わざるを得ない。他の国のように立派なものに追いつかないといけない。文明国である我が国としてふさわしい制度や施設が必要。具体的な姿は作っていただきつつあるが、最終報告に向けてさらに御議論をいただき、よろしくご指導をお願いしたい。お願いしておきながら、ご存じのように総理を引くこととなってしまう申し訳ない。私自身関心のある分野。機会があれば、新しい立場でもまたしっかりやっていきたいと思っている。政権は変わるが、重要政策は変わらない。

◎委員から福田総理に対して発言。

(加藤丈夫委員) 総理は、御就任前から公文書管理の重要性を認識しておられて、総理の熱い思いがこの有識者会議のベースになった。中間報告が早くできたのも、担当大臣を指名し、並々ならぬ熱意による後押しがあったからだと思う。時を貫くという言葉が中間報告にあるが、総理からも引き続きこの問題を見ていくという心強いお話を頂いた。設備の充実と人員の増強の課題もある。この仕事は後世に残る仕事である。引き続き是非御指導をお願いしたい。

(後藤委員) この問題は、総理が突破口をつくり、道筋が作られた。これからも引き続き力をお貸しいただきたい。

(福田総理) 公文書は、私は日本の歴史というものの証となるのが公文書だと考えている。日本がこういう国だったという事が、将来の国民に分かってもらえるようにすること。例えば、将来の国民に、2008年に急に日本の総理大臣が辞めてしまったということも含めて、その記録が紙になるのか電子になるのか、100年経つと技術も変わるので、先のことも考えてもらいながら、将来的にも国民が容易にアクセスできる仕組みを整えてほしいと思っている。理想的なものに一気に行かないかもしれないが、できることからしっかりと進めていくことが大事。

◎杉本教授からのヒアリングを実施し、質疑応答。その後、他のヒアリングを実施し質疑応答。その後、山崎室長より、有識者会議中間報告に対する一般への御意見募集の結果等を説明の上、フリートーキングを行った。

◎質疑やフリートーキングにおける、各委員からの主な意見は以下のとおり。

- ITの話は、「メタデータ」等、技術的表現が多く、詳しい人にはわかるが、知識のない人にとってはそれだけで嫌になってしまうようなこともあり得る。報告書があらゆる人たちに受け入れてもらえるように、その点配慮する必要

がある。

- メタデータの付与、国立公文書館の目標等、いま何ができていて、何ができていないのか、もう少し整理が必要ではないか。
- 前回ヒアリング等行った各府省からの意見と、今回出てきた国民の声にはかなりのギャップがある。また情報公開やセキュリティといった観点から進められている行政事務に、いかに後世に記録を残すか、という観点を加えていかなければならない。こういったものを乗り越えるには、政治の力が必要と思う。

◎次回は9月25日（木）10時開催とされ、残された課題の議論に向けたヒアリング等を実施することとなった。

<文責：内閣官房公文書管理検討室（速報のため事後修正の可能性あり）>